

令和2年11月24日亀岡市教育委員会会議録

- 1 開会 午後2時00分
閉会 午後2時55分

2 出席委員

神	先	宏	彰	教育長
関		吉	廣	教育長職務代理者
江	口	昌	道	委員
北	村	真	也	委員
末	永	礼	子	委員
出	藏	裕	子	委員
福	嶋	百合	子	委員

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

片	山	久仁彦	教育部長
國	府	美幸	次長兼総括指導主事
亀	井	鶴子	教育総務課長
伊豆田	晃	正	学校教育課長
谷	口	正二	社会教育課長
山	崎	浩久	社会教育課人権教育担当課長
松	永	潤子	歴史文化財課長
桂		和裕	学校給食センター所長
谷		仁志	図書館長
鵜飼		均	文化資料館長
海老原		睦	教育研究所長
巻	田	晃宏	教育総務課総務係長

5 傍聴者

1名

6 議事の概要

(1) 開会

○教育長が開会を宣言。

(2) 前回会議録の承認

令和2年10月27日に開催した定例会の会議録を一部修正して承認した。

(3) 教育長からの報告

○教育長から以下の報告があった。

◎亀岡市関係

- ・市自治振興式典が例年より規模を縮小して開催され、市政功労者などが表彰された。
- ・市優良職員表彰式が行われ、勤続15年・20年・25年の職員が表彰された。
- ・令和元年6月に施行したふるさと亀岡の歴史文化遺産を守る支援補助金要綱に基づき対象となる補助金の審査を行った。
- ・学校規模適正化亀岡中学校ブロック協議会を開催し、小中一貫教育を見据えて亀岡地区東部地域の校区見直しについて提案を行い、意見を求めた。
- ・教育委員協議会を開催し、令和3年度当初予算について協議した。
- ・部落解放同盟京都府連合会・亀岡市協議会とこん談を行った。
- ・JICA海外協力隊でブラジル サンパウロに行っておられた三輪美咲先生が帰国され、市長とともに報告を受けた。本来、来年3月までの予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響でやむなく早期に帰国された。
- ・校園長会議を開催し、新型コロナウイルス感染症対策と来年度実施予定の魅力と特色ある学校づくり事業について指示した。
- ・副校長及び教頭会議を初めて開催し、管理職としての心得を訓示し、魅力と特色ある学校づくり事業について積極的なチャレンジを促した。
- ・学校規模適正化に係わって東別院町にお住まいの小・中学校と未就学の保護者を対象に意見交換を行った。
- ・市・市教委・環境事業公社・ソフトバンク事業連携協定から1年がたち、環境部門、教育部門からそれぞれ事業報告と意見交換を行った。
- ・第1回教育振興基本計画検討会議を開催し、市民意識調査などについて協議いただいた。

◎国・府等の関係

- ・全国都市教育長協議会常任理事会・理事会が新型コロナウイルス感染症により延期されていたが、今年度初めて開催され出席した。
- ・日本PTA近畿ブロック研究大会京都府大会（京都府PTA研究大会亀岡大会）がガレリアかめおかで開催され、初めての取組としてWeb開催で全国に発信された。
- ・市長とともに京都府教育委員会に対して教育委員会関係分の要望項目を説明し要望を行った。

- ・南丹教育局管内教育長会議が開催され、高校入試の状況などの説明を受けた。
- ・府中学校駅伝競走大会が開催された。入賞チームが出場する近畿大会や全国大会の中止は決まっているが、12月に大阪で交流大会が行われる予定となっている。

○教育長からの報告を受けて、委員から次の意見があった。

出 蔵 委 員 日本PTA近畿ブロック研究大会京都府大会は、近畿ブロックでは9年に一度、京都府の中では12年に一度の順番の中で亀岡市で開催された。通常であれば1,800人規模の参加であったが、Web開催となり結果として2,300件のアクセスがあった。今後、ダイジェスト版としての配信も予定している。コロナ禍でこそ生まれた知恵であり、普段、研修会に来られない保護者にも届けられ、しっかり研修してもらえる場を作るきっかけができた。今後も子どもたちの学びと子育ての環境を整えていけるようにPTAでも学びながらサポートしていきたい。

(4) 報告事項

- ①亀岡市内の児童生徒の表彰等について
- ②亀岡市の小中一貫教育（リーフレット）について
- ③亀岡市さわやか教室（第1講座、第2講座）中止に伴う受講申込者向けDVDテキストの送付について

○所属長からの報告を受けて、委員から次の質問・意見があった。

＜亀岡市の小中一貫教育（リーフレット）について＞

江 口 委 員 教員向けのリーフレットか。

教 育 部 次 長 平成27年度に作成したリーフレットは教員向けであったが、今回は学校規模適正化での説明にも使用し、保護者や地域向けにも配布していきたいと考えている。

江 口 委 員 学校と保護者や地域、両輪で達成できていくものだと思う。
関 職 務 代 理 者 試行校として東輝中学校の校区で進められるということであったが、今後、連携型から一貫型に進む目途は一定あるのか。

教 育 部 次 長 カリキュラムの見直し等も必要になってくる。まず東輝中学校ブロックの具体的な動きを踏まえ全市的に波及できるよう検討していきたい。詳徳中学校ブロックにおいても学校規模適正化により小中一貫教育が進められる環境にあるので、中学校ブロックの実態に即して進めていきたい。

末 永 委 員 小中一貫教育については進めていくべき状況にあると思

- っている。特にICT教育や外国語教育など、校区の中でカリキュラムと一緒に検討しながら連携して進めていかないと子どもたちに必要な力がついていかない。趣旨や意義を地域、保護者にしっかり説明していく必要がある。東輝中学校ブロックだけでなく、詳徳中学校ブロックも最初から進めていく方がスムーズにいくのではないかと思う。
- 教育部次長 学校規模適正化の進捗状況等を考えると、仰るとおり、東輝中学校ブロック、詳徳中学校ブロックがそれぞれ試行校として進めていくのが本来だと考える。しかし、小中一貫教育を進めていくためには教員の意識改革や合同研修等の基盤づくりが必要であり、その進め方は様々である。詳徳中学校ブロックにおいては、実態に即して積極的な小中連携から取組を進めていくことを考えている。
- 北村委員 小中連携と小中一貫は根本的に違う。小中一貫を進めていく時間軸はどういう形になるのか。例えば、一定経過を教育委員会で発表するのか。発表するなら先生方の負担も増えるので人員配置は考えられているのか。
- 教育部次長 一定限られた時間内で一定成果を出す。そこで得られたノウハウを次の学校に広げていくようなスキームで考えるなら人的配慮を考える必要がある。そうでなければ形だけになり、拡散していけないのではないか。
- 北村委員 時間的な見通しをもつことや加配教員の配置は必要だと考えている。現在、小中一貫教育にかかる加配の配置を京都府教委に申請している。小中一貫教育を進めるため「小中連携教育校推進委員会」等を開催し、試行校の取組を全校で共有し、各中学校ブロックの取組につなげようとしているところである。
- 教育部次長 このリーフレットは確定版か。「ほっかほか心 ふるさと大好き かめおかっ子」がゴールになるのかが気になる。
- 北村委員 現在、次期教育振興基本計画の理念を協議いただいているところであるが、このリーフレットは令和2年11月発行のため、現在の教育振興基本計画のめざすことも像としている。このリーフレットは令和4年度末まで使用する予定である。

＜亀岡市さわやか教室（第1講座、第2講座）中止に伴う受講申込者向けDVDテキストの送付について＞

- 江口委員 大河ドラマの放送もありタイムリーな話題だと思う。DVDを配布して反響はどうか。

社会教育課長

窓口まで来られ、講座は中止になったが丁寧な対応をしてもらい有難いというお声をいただいている。電話でも何件か良かったと言っていた。

(5) その他

北 村 委 員

教育長の報告の中で、駅伝のタイムが落ちているという話があったが、働き方改革の中でクラブ活動のあり方がどうなっているのか。優先順位がおちていっているのか。外部指導員の任用もあると思うが、クラブ活動の状況など知りたいので一度、議題に取り上げてもらいたい。

教 育 長

粘り強く積み上げて指導していく力が落ちている。働き方改革の中で土日に指導できないなどの状況もある。ぜひ議論する場を設けていきたい。

(6) 閉会

○教育長が閉会を宣言

以 上